

審判上の確認事項

(令和6年度 第146回島尻地区小学生バレーボール 夏季大会)

島尻地区小学生バレーボール連盟 審判部

2024年度公益財団法人日本バレーボール協会6人制競技規則により実施する。

但し、別に定める小学生バレーボール競技規則を用いる。また、本大会はテクニカルタイムアウト(2回/セット)を採用する。

第1、第2セットでは、リードしているチームが7点と14点に達した時、第3セットはリードしているチームが8点に達した時にチェンジコート後に適用する。デュースが続く場合、1～2セットは両チームが25点に達した時に適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。また、3セット目は両チームが21点に達した時に適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。

- (1) トスは両チームキャプテンが立ち会いのもとに行う。
- (2) 監督はスコアラズテーブルに最も近い位置でベンチに座り、ラリー中はベンチに座っていなければならない。ラリー終了後、自チームベンチ前のアタックラインの延長線からウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で指示を出すことができるが、みだりに監督が立ち上がったたりする行為を許容するものではない。過度に目的を逸脱した行為に対しては、競技規則(21条不法な行為とその罰則)により適切に処置される。
- (3) テクニカルタイムアウトは選手およびスタッフ(小学生)の健康管理のためのタイムアウトである。選手はベンチの外側の端(給水場所はベンチ横)に位置する。ベンチスタッフ(大人)は、選手およびスタッフ(小学生)全員が給水できるように準備する。給水を行うか否かは選手本人の意思による。ベンチスタッフが選手に話しかける時は、ベンチスタッフ自身が規定の位置に移動する。
※ベンチスタッフは健康観察をおこない、不調が疑われる選手に対しては直ちに対応する。レフェリーは必要に応じて体調についてベンチスタッフに質問することができ、対応を指示することができる。
- (4) タイムアウトの要求には必ずハンドシグナルを用いること。また、選手交代については交代選手がサブスティチューションゾーンに入り、速やかに交代をおこなう。
- (5) 試合中のレフェリーに対する質問はゲームキャプテンのみがおこなう。監督は認められない。
- (6) 不法な行為(反スポーツマン的行為や言動)に対しては厳正に処置する。(退場・失格)
- (7) 試合中コートが濡れた場合は、コート内の選手がタオル等を用いて行う。ラリー終了後速やかに拭くこと。コート内の選手にワイピング用のハンドタオルを持たせるようにレフェリーからベンチスタッフに伝えること。コートの外まで幅広く濡れた場合は、レフェリーが判断して指示するのでその指示に従い対応すること。尚、柄付きモップの使用は、タイムアウト、セット間、もしくはレフェリーが指示したときのみである。この場合はベンチにいる競技参加者が速やかに行う。
- (8) レフェリーをおこなう際はレフェリーウェアを着用するのが望ましい。
- (9) その他

①試合前後のあいさつについて→コロナ禍まえに戻す。

選手→ネットをはさんで握手

監督→試合後は審判員と握手

②タイムアウトは30秒間であるが、選手は30秒待たずにコートに戻ってよい。

③本大会は簡易IF(3セット連)を用いる。**要検討**